



おんせん県 おおいた大会 に向け

リレー放流 スタート!

▽2面



豊かな海づくりを学ぶ、松浦小児童

パートナーシップ飲食店に認定 梅丘寿司の美登利総本店

広瀬知事から認定証の
交付を受ける梅澤社長



かぼすブリ握り(左)、かぼすヒラマサ握り(右)

県は「おおいたの魚パートナーシップ飲食店」に株式会社梅丘寿司の美登利総本店（東京都世田谷区）を認定した。
広瀬知事は14日、県庁で梅澤昌司社長に認定証を交付した。

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.if-oita.or.jp/>



美登利総本店は国内で24店舗、国外(香港、台湾)で5店舗を展開する高級寿司チェーン。十年以上前の平成23年からかぼすブリを取り扱い、「大分県フェア」も開催している。また、本年度はかぼすヒラマサも利用するなど、連携を深めている。
認定証を受けた梅澤社長は、「飲食店としてはパートナーシップ第1号となり、ありがたい。また、責任も感じるので、これからも大分の魚を取り扱いたい」と述べた。

広瀬知事は、これまでの利用やフェアの開催に謝意を表するとともに、「良いパートナーを得て喜んでいる。本県にはかぼすブリやかぼすヒラマサをはじめ、多くの特産水産物に恵まれているので、より一層のご愛顧をお願いする」と期待を示した。
これまでパートナーシップは、関東圏で県産水産物を通年販売し、大分フェア等の開催にも協力的な量販店を認定してきた。飲食店を認定するのは、今回が初めてとなる。



2面

テーマやロゴ 募集中!



3面

台風14号 支援を要請



4面

兵庫大会開催



育樹際に参加



6面

水研だより



おおいたの魚 パートナーシップ量販店の認定実績

県は、県産の水産物の販売促進に協力的な量販店を認定し、認知度向上や消費拡大を図っている。これまでの認定実績は次のとおり。

2年9月認定



株式会社
ベルク

(鶴ヶ島市、原島一誠社長、123店舗)

3年10月認定



株式会社
ウオロクHD

(新潟市、本多伸一社長41店舗)

3年10月認定



株式会社
オギノ

(甲府市、荻野寛二社長、40店舗)



おんせん県おおいた大会に向け リレー放流スタート

令和6年秋の開催が決まった2巡目大分大会を記念しリレー放流が始まった。第1回大会の開催地となった佐伯市鶴見を振り出しに、別府湾岸の日出町にも子供たちの歓声が響いた。



イサキの稚魚を放流する松浦小児童

大会本番の放流行事に向け、聖火リレーの様に県内各地で稚魚等の放流を実施し大会の周知と機運の情勢を図るとともに、園児や児童らを対象に水産業や魚介類への理解を深めてもらう目的。市町村や漁協支店も協力し、大会当日に向けリレー方式で繋いでいく。

佐伯市鶴見の松浦小では9月22日、リレー放流に向けた水産教室が開催された。地域の漁業や豊かな海づくりについて学び、アジの開きやマイワシの丸干



マコガレイの稚魚を放流する日出小児童

速見郡日出町では11月8日日出小3年の児童がマコガレイの稚魚300匹を放流した。漁業公社国東事業場でふ化した稚魚を町の施設で10cmまで育成したもの。特産の城下かれいとして水揚げされることが期待される。地域の漁業や海洋環境についても学び、子供らは豊かな海づくりを実感した。

しなど特産加工品の七輪焼きを体験した。10月11日には松浦漁港でイサキの稚魚300匹を放流し、旋網漁船の見学なども行った。



松浦小で行われた水産教室



七輪焼きを体験する松浦小児童

第43回 全国豊かな海づくり大会

令和6年秋 開催 ～おんせん県おおいた大会～

全国のみなさんからのご応募お待ちしております！

大分県応援団「鳥」めじろんが大会PRキャラクターとして活躍します！今回募集するのは、めじろん大会専用コスチュームデザインです。

大会テーマ コスチューム デザイン ロゴマーク デザイン募集

募集期間
令和4年 10/17 (月)
令和5年 1/13 (金) 必着

募集内容	最優秀賞 各1点	優秀賞 各2点	佳作 各3点
①テーマ	賞状、副賞3万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、副賞1万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、県産水産物5,000円相当
②コスチューム	賞状、副賞10万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、副賞1万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、県産水産物5,000円相当
③ロゴマーク	賞状、副賞10万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、副賞1万円+ 県産水産物5,000円相当	賞状、県産水産物5,000円相当

※高校生以下の方が入賞した場合の副賞は、同額のクオカードとなります。

応募方法等の詳細、応募用紙等は、県ホームページを参照してください。

🔍 全国豊かな海づくり大会 大分 募集 🔍

(大分県農林水産部漁業管理課HP)

皆様ご応募下さい！

大会実行委員会は大会テーマ等を募集しています。

テーマは、大会の意義や理念を簡潔に表現した標語・スローガン。デザインは、県の応援団鳥「めじろん」のコスチューム。ロゴマークは、大会周知と県産魚PRに継続して活用できるデザインとなる。

皆さん、積極的な提案をお願いします。

問い合わせ 応募先

大分県農林水産部漁業管理課全国豊かな海づくり大会準備班
(第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会事務局) 宛
〒870-8501 大分県大分市大手町3-1-1 ☎097-506-1767 平日9:00～17:00(土日祝日を除く)
TEL 097-506-3923 FAX 097-506-1767 MAIL yutakanaumi@pref.oita.lg.jp

11月12日(土)～13日(日)



第45回全国育樹祭が、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席の下、本県で掲載された。コロナ禍で1年延期となった本大会は、12日に豊後大野市で「お手入れ行事」、翌13日に大分市で「式典行事」が行われた。



本県は昭和52年に別府市の志高湖畔で第1回大会を開催しており、2巡目の開催となった。今回のテーマは「豊かなおおいた 森林を育み 木と暮らし」。大分市の昭和電工武道スポーツセンターで行われた「式典行事」では、秋篠宮皇嗣が「本大会をひとつの契機として、豊かな森林を育む心がさらに広がり、森林からの恩恵である木材を暮らしの中に生かす木の文化が、ここ大分の地から全国へと展開していくことを祈念します」と述べられた。

続いて、長年にわたって緑化活動に取り組んできた個人や団体などが表彰された。また、大分県出身の俳優財前直見さんや地元の子どもたちが、緑豊かな森を受け継ぐ大切さを映像や歌を交えながら紹介した。前日に豊後大野市の大分県民の森・平成森林公園で行われた「お手入れ行事」では、秋篠宮皇嗣が天皇(現上皇)陛下お手植え木であるアカガシの枝打ちを、妃殿下が皇后(現上皇后)陛下お手植え木のカツラに肥料をまき、皇嗣が埋め戻した。

兵庫で全国海づくり大会 大分で育樹祭



第41回全国豊かな海づくり大会～御食国(みけつくに)ひょうご～が、天皇、皇后両陛下のご臨席の下、兵庫県明石市をメイン会場に開催された。コロナ禍の影響で、3年ぶりの現地ご臨席となった。



兵庫県は昭和57年に美方郡香美町(旧城崎郡香住町)で第2回大会を開催しており、2度目の開催は全国で初めてとなった。大会では、式典行事、海上歓迎・放流行事、関連行事などが行われた。今回のテーマは「広げよう 碧く豊かな海づくり」。明石市民会館で開催された式典では、天皇陛下が「豊かな海の環境を保全し、次世代に引き継ぐことは私たちに課せられた使命。この大会を機に、海や漁業への理解と関心が深まり、豊かな海づく

りの輪が兵庫県から全国に広がることを願う」と述べられた。また映像で、兵庫の海の変遷や海の栄養を取り戻すための、かいほりの取り組みなどが紹介され、豊かな海に関する最優秀作文の発表や、県内の漁業後継者による海づくりへの思いを込めたメッセージが披露された。式典後には、明石港で約百隻の漁船団によるパレードや、マダイやヒラメの放流が行われた。当漁協からは中根組合長等が招待を受けて臨席した。

11/28 開催

第5回監事会・役員研修会・第7回理事会 地区漁業運営委員長と水産団体合同会議

28日、水産会館において、第5回監事会、役員研修会、第7回理事会及び地区漁業運営委員長と水産団体合同会議が順次開催された。

役員研修会においては、農林中央金庫福岡支店・JFマリバンク班次長の小原雄作氏が、「早期指導先への該当と対応例」「自己資本比率改善のために想定される対応案」及び「会計監査人監査への移行に伴う負担」等について説明した。また、信用事業を譲渡する場合の課題等を示した。

第7回理事会においては、第1号議案「組合員の異動について」、第2号議案「資産自己査定関連規程の一部改正について」、第3号議案「不良債権の処理方針について」、第4号議案「令和4年度・仮決算概要について」及び第5号議案「おさかなランドOPA店の中途解約(店舗廃止)について、いずれも承認した。不良債権については、総与信額



合同会議に出席した運営委員長

4千万円を超える者について、「固定化しているのではないか」、「どのような回収努力をしているのか分かり難い」との厳しい意見が出された。OPA店の廃止については、出店に賛成した理事の責任を問う監事からの発言もあった。次いで、協議・報告事項として、「余裕金の運用状況報告について」、「令和4年度上半期内

部検査実施報告について」及び「事業実績報告について」説明した。なお、今回は12月19日の週に開催することとした。

合同会議では、4団体が議案説明を行った。まず、第1部で当漁協が「令和4年度・仮決算概要について」及び「支店等の再編に向けた取組について」、第2部で日本漁船保険組合大分県支所が「令和5年度漁船保険等の料率改正について」及び「組織体制等に関する検討について」、第3部で全国共済水産業協同組合連合会大分県事務所が「大

分県漁協の共済事業について」、最後に第4部で全国合同漁業共済組合大分県事務所が「災害対策について」説明した。次いで、本年12月1日に施行される「水産流通適正化法」及び来年10月から導入される「インボイス制度」について研修した。流通法に対しては、制度の悪用を危惧する発言もあり、運用面の課題がありそうだ。また、令和6年秋に本県での2巡目開催が決まった「第43回全国豊かな海づくり大会」について、県漁業管理課の安楽康宏主幹が報告した。

祝表彰



長年のご功績により表彰された皆様は、本県漁業の振興・発展に大きく寄与されました。心から感謝し、お祝いを申し上げます。

JF全漁連

創立70周年記念功労者
山本 勇 前組合長



本年度漁協運動功労者
戸高吾一郎 理事



大分県

本年度大分県功労者
村松 一也 氏

漁業経営者として永年にわたりブリ生産などによる養殖業の振興と発展に尽力



本年度大分県功労者
都 キミ子 氏

水産加工品開発などを通じて永年にわたり水産業の活性化や女性の活躍推進に尽力



水 研 だ よ り

環境負荷を軽減する生簀網の検証

現在一般的に利用している生簀網では、海水中で一定期間経つと藻や貝類などの水生生物が大量に付着し、網目が詰まり生簀内の海水交換が悪化し、餌料効率が落ちたり病原体の介在を高め、魚病が発生しやすくなります。

また、付着物を除去するため定期的に潜水による網掃除を実施していますが、掃除することで大量の付着物が海底に堆積することで汚泥となり、赤潮の発生が促されます。

大分県では、豊かな海を守る養殖手法を確立するため、環境負荷を軽減した養殖手法として生簀網の材質の改良に着手しています。

水産研究部では、銅合金製網と一般的に利用している化学繊維網、亜鉛メッキ鉄製網を一定期間海に垂下し、水生生物の付着状況を比較しました。

今回銅合金製の網を選定した理由として、抗菌作用を発揮する金属には銅、銀、白金、金、鉛、水銀などがありますが、抗菌作用以外の物質の安定性、安全性、価格を考慮して銅を選択しました。

試験は2022年7月21日に水産研究部の筏に1m×1mの各素材の網(写真1)を海中に垂下し、設置しました。(写真2)

9月30日(設置後71日目)に水中撮影を行い、化学繊維網には藻類やコケムシなどの付着生物が確認され、亜鉛メッキ鉄製網では藻類等の付着物が確認されましたが、銅合金製の網には水生生物の付着はほとんどみられませんでした。(写真3)

今後は、銅合金製網を利用することによる生簀内の環境改善調査や、魚病発生リスク軽減調査など行う予定にしています。



写真1 7月21日(設置時)の各素材の網の状況



写真2 各素材網の設置状況

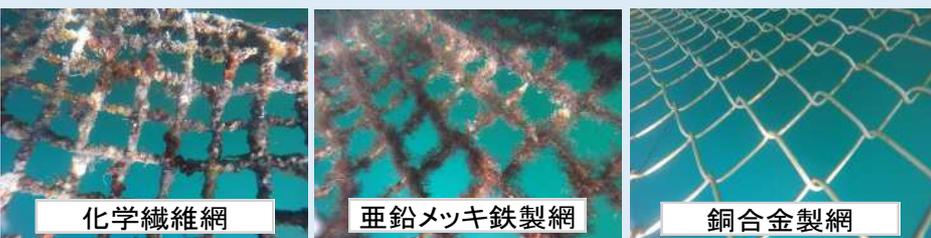


写真3 9月30日(71日後)の各素材の網の状況

水産研究部の様々な情報はホームページからも読むことができます。

農林水産研究指導センター水産研究部

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

同部北部水産グループ

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>

こんなこと言われていませんか?

電子マネーを購入されるお客様
マルチメディア端末を利用されるお客様へ

- 有料サイトの未納料金がある
- 解約手数料が必要
- 電子マネーを買って番号を教えてください

詐欺です!?!

すぐに相談してください!

消費者ホットライン ☎188
大分県消費生活センター ☎097-534-0999
大分県警察 ☎#9110

天井てんやで関ブリ提供！



提供期間 11月10日～
1月中旬(予定)

提供場所 天井てんや 国内149店舗
* 残念ながら県内に店舗はありません。県外旅行の際ご利用下さい。

メニュー 関ぶりを使用した天井、天ぶら単品 (計20万食以上を予定)
・冬天丼・冬ののっけ単品

天井てんやHP <https://www.tenya.co.jp/sp/>



栗原心平さんのYouTube「ちそうさまチャンネル」に森岡水産の「かぼすヒラメ」と大分うにファームの「養殖ウニ」が登場しました！
ブランド農産物や観光情報なども交え、楽しい動画に仕上がっています。ぜひ、ご覧下さい。

「ちそうさまチャンネル」に登場
かぼすヒラメ&大分うにファーム

ちそうさまチャンネル <https://www.youtube.com/watch?v=xtoLcObJt4U>

農林水産省のインボイス制度の解説です。詳しい説明はHPを参照して下さい。

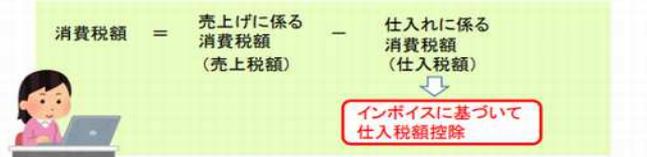
<https://www.maff.go.jp/j/keiei/tyosei/inboisu.html>

農林水産省 農林水産業・食品関係事業者の皆さまへ

令和5年10月から消費税のインボイス制度(適格請求書等保存方式)が始まります

○インボイス制度のポイント

- ・ 消費税は消費者が負担しますが、納税は事業者が行います。
- ・ 事業者は、売上げに係る消費税額から、仕入れに係る消費税額を差し引いた額を納税します。(仕入税額控除といいます。)
- ・ 令和5年10月から、事業者が仕入税額控除を行うためには、原則として、仕入先からインボイス(適格請求書)を発行してもらい、保存しておく必要があります。
- ・ このインボイスは、税務署長の登録を受けた課税事業者のみが発行できます。(免税事業者はインボイスの発行ができません。)



【従来の区分記載請求書】		【インボイス】	
請求書	請求書	請求書	請求書
●●(株) 御中	○○会社	●●(株) 御中	○○会社
○年○月分 請求金額 43,600円		○年○月分 請求金額 43,600円	
○月○日 割増し 550円		○月○日 割増し 550円	
○月○日 牛肉 ※ 5,400円		○月○日 牛肉 ※ 5,400円	
合計 43,600円		合計 43,600円	
※は軽減税率対象 (10%対象 22,000円) (8%対象 21,600円)		※は軽減税率対象 (10%対象 22,000円) (8%対象 21,600円)	

赤字が従来の区分記載請求書との変更点

○インボイス制度が始まるに当たり、農林水産業関係事業者の皆様は次のような対応や検討が必要になります。



課税事業者 (売上高が1千万円を超える事業者。消費税の納税義務があります。)

- 【売り先との関係】
- インボイス(適格請求書)を発行する事業者となるためには、税務署長の登録を受ける必要があります。
 - 売り先の求めに応じて、インボイスを発行する必要があります。

- 【仕入先との関係】
- 仕入税額控除をするためには、原則として、仕入先からインボイスを発行してもらい、保存しておく必要があります。
 - 仕入先が免税事業者の場合は、インボイスを発行してもらえないため、仕入税額控除ができなくなることによる影響を踏まえて、**仕入先や売り先と価格面を含め適正な取引条件等を話し合っておいてください。**

※ 仕入先が免税事業者等のインボイス発行事業者でない場合であっても、制度開始後6年間は、一定の仕入税額控除ができる経過措置が設けられています。

免税事業者 (売上高が1千万円以下の事業者。消費税の納税義務が免除されます。)

- 【売り先との関係】
- インボイスを発行できません。
 - 売り先が消費者、免税事業者、簡易課税事業者である場合、卸売市場や農協、漁協、森林組合、事業協同組合等(※)への委託販売を行う場合は、インボイスの発行を求められないため、これまでの取引と何ら変わりません。
 - (※) 農協などの場合は、無条件委託かつ共同計算方式に限りです。
 - 売り先が課税事業者である場合は、売り先が仕入税額控除をできなくなるため、**売り先と価格面を含め適正な取引条件等を話し合っておいてください。**なお、今後の経営発展を考えて、課税事業者や簡易課税事業者へ転換することも選択肢の一つとして考えられます。

【仕入先との関係】
特段の対応の必要はありません。

【農林水産省の相談窓口】
インボイス制度に関する専用ダイヤル: 03-6744-7140
(地方農政局等の相談窓口は、コチラのURLをご参照ください)
<https://www.maff.go.jp/j/keiei/tyosei/inboisu.html>

必要に応じて、財務省(消費税制度に関すること)、国税庁(消費税制度の運用に関すること)、中小企業庁(IT導入補助金及び特種化補助金並びに下請法に関すること)、公正取引委員会(独占禁止法上の優越的地位の濫用規制及び下請法に関すること)その他の関係省庁に対して情報提供するとともに連携して対応します。



24日の大分合同新聞1面に「大分 全国最多13品目」の見出し記事が掲載された。ご覧になっただろうか。何が最多かと言うと、温暖化などの気候変動が水産物に及ぼしたマイナスの影響。本県が全国で最も悪影響を受けた魚種が多いことが、共同通信の調査で分かったとしている。県は「豊富な魚種が獲れる漁場であることが負の影響に繋がった」とコメントしている。

「高い魚ほど売れない」。中高級魚が多い大分は、外食需要減退の影響をものろに受けた。コロナの影響は、国や県の経済政策が奏功し改善してきたが、ウクライナ侵略に端を発した資材不足と値上げの連鎖は止まらない。いずれにしても、令和4年は本県の水産業にとって、本当に厳しい試練の年であった。

年始の1月22日には最大震度5強を記録した「日向灘地震」が発生。佐伯市を中心に漁協施設を含む水産施設や漁港などが被災し、ダブルパンチとなった。

漁協を取り巻く厳しい状況は自然災害ばかりではない。法改正に伴う会計監査人監査への移行や流通法・インボイス制度への対応にも苦慮する。

山本勇前組合長の功績を受け継ぎ、豊かな海づくりに向け、来る年が、災害のない実りの多い年となるよう祈念したい。

編集後記

令和4年を振り返って

7億円を越えた。春先からは長期間にわたり旋網漁業の不振が続いた。関係漁業者はもとより、漁協の経営も大きな打撃を受けた。

今回のウオメシは大分市公設市場の場内食堂「大珉」の朝定食「塩鯖」をご紹介します。

いっもお世話になる魚市場だが、イベントという年始の初競り、4月初旬の「かほすヒラマサ」出荷式、そして秋も深まった10月末の「かほすブリ」旬入り宣言と続く。早朝の5時から市場関係者にお披露目したあとは、いつも皆で朝食。1番人気がこの「塩鯖」だが、数量が限られる。10数人に3食だけのことも。日頃は若手に譲りチャンポンに走るが、今回は本稿に取り上げたく注文させてもらった。



11月の県産魚の日は、おさかなランド3店舗で「別府湾祭り」を開催。別府湾水産振興協議会の協賛をいただき、特産の「ちりめん」、「はも(湯引き・フライ)」、「えそ(フライ用)」などを販売した。目の前の別府湾で水揚げされた魚は鮮度が良く、消費者の皆さんに好評を頂いた。



夜も明けきらぬ市場で忙しく働く人々を満足させる味とボリューム、そしてワンコインのガッツリ朝食だ。Y社長、いつもご馳走様です！

サカナをたべれば幸福が見えてくる